

C 紺屋町 緑屋本店石蔵でヒアリング

B 鍛冶屋町 立山商店前でヒアリング
立山商店（茶の蔵）
釜田醸造所（みそ・しょうゆ蔵）



E 人吉旅館 見学ヒアリング

人吉城下の文化遺産
温泉旅館
公衆温泉
焼酎蔵
味噌醤油蔵 茶の蔵
鍛冶屋

2020-07-19 KMTタスクフォース人吉

Aで労働作業の後B～Eを巡回

※記録はfbで既報
※ベースの地図は 1987 年当時

差出人: 富士川一裕 <fujika6613@gmail.com>
日時: 2020年7月27日 11:45:33JST
宛先: 人間都市研究所 <human@pop07.odn.ne.jp>
件名: 200726持田美沙子fb

200726持田美沙子fb

7月の水害から3週間が経過した4連休だったが、
そのうちの3日間、県庁職員としてのボランティア支援から建築士会としての支援へとシフトし、人吉旅館の支援を中心に災害の現状を見てきた。個人的な意見をまとめてみた。

人吉旅館は、登録文化財として登録されており、文化財としての価値を守ろうとして動いている方々がいらっしゃる。また、多くのファンもあり、クラウドファンディングが立ち上がっていて、すでに目標額の500万をはるかに超える額が集まっている。しかし、被害が大きく、また、建物の大きいため、復興にはかなりの費用と時間が掛かるようだ。

九日町の商店街を車で走ってみたが、シャッターが閉まったままのお店も多かった。被災から3週間が経過しているが、本来であれば、シャッターを開け、汚泥を取り除き、消毒をした上で通風を取って乾燥を進めたいところである。支援が行き届いていない？ そんな印象であった。

商店街に住まいを構えている恩師宅で、状況を聞かせて頂いたが、支援の格差を感じている方々もいらっしゃるようだった。例えば、古い建物については、大勢の方が調査に来られたりボランティアも大勢の方が来られたりする。住宅は、ボランティアセンターからの支援者が来る。しかし、歴史的な建物でない店舗については、ボランティアが入っていない状況のようだった。

コロナの影響で、支援者が通常の数よりはるかに少ない状況のため、仕方ないのかもしれないが、地域全体としての復興を考えると、このままではよろしくないと思う。

では、私たちにできることは、少しでも多くのボランティアに参加をしてもらえるように、まずは呼びかけることか。。

そして、建築をかじっている人間としては、ボランティアの方々に、適切な指示が出せるように、水害時の建物の復興・復旧活動について、過去の対応を学び実践に活かすことか。

と思いを巡らせた4連休だった。

iPadから送信



壁：竹小舞 木ずり 和紙骨組



客室隔壁：貫+筋交い 放射状の竹小舞



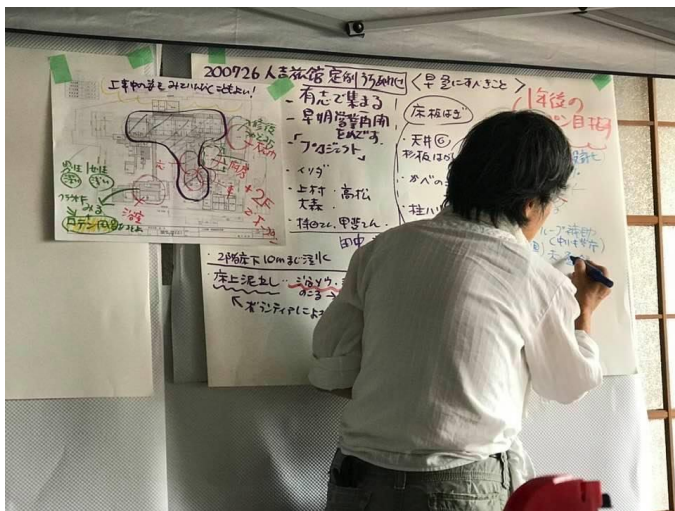
梁が浮き上がりはずれている



天井の上まで浸水した



天井の板を丁寧に剥がす大工さん



WSファシリテーターの磯田節子理事



カビがはえてきた天井



芳野旅館

【小野泰輔 7 月 26 日fb】

昨日は人吉の 芳野旅館 の床はがしと泥かきをしてきました。好天の休日ということもあり、たくさんのボランティアの方々が集まり、作業も捗りました。今日は相良村のボラセンに行きます。



芳野旅館

差出人: 青木 勝士 (aoki-k-dw) <aoki-k-dw@pu-kumamoto.ac.jp>

日時: 2020年7月27日 13:46:42JST

宛先: 磯田節子 <setsu.isoda@gmail.com>, 富士川一裕 <human@pop07.odn.ne.jp>, 伊藤 重剛
<jukoito33@hotmail.com>, 竹田 宏司 <takeda@city.tamana.lg.jp>, Tsuji Yasuaki
<taimei_open@yahoo.co.jp>, Taijin Matsunami <matsunamitaijin@gmail.com>

件名: RE: 26日（日）芳野旅館報告

磯田先生(cc皆様)

昨日7・26に芳野旅館の庭の汚泥等の除去に行ってきました。

25には御出でだったそうで、入れ違いになったのがとても残念です。しかし、亭主の田口様は磯田先生をすごく頼りにしておられて

「文化財に詳しい方に修復設計をしてもらわないといけない」「この建物は文化財なのだから、普通の工事業者では手に負えない」

との基本的考え方でした。磯田先生が来てくれたことが、登録手続き以来の信頼感で、心強いようです。

僕はひたすら力仕事でしたが、作業中に床下から明治期の宿帳などが汚泥まみれで発見され、保護手続きについて説明し、県文化課へレスキューを依頼しました。

2階はご確認のとおり良好な状態ですが1階が水損しているので、湿気抜きのためできる限りの開放を助言してきました。

トイレも廊下扉も全て開放し、湿気を外気に逃がすことをお勧めしました。

倉庫内の動産や、1階の動産など可能な限り、廃棄を防ぎ2階に挙げて仮保管していることも確認しました。

被災にも関わらず、比較的資料の残りが良かったので、ほっとしました。

先生には今後ともご支援をよろしくお願いします。

青木



坂本

差出人: 山本一馬fb 八代市坂本町

日時: 2020年7月27日 14:29:00JST

宛先: 人間都市研究所 <human@pop07.odn.ne.jp>

件名: 200724令和2年7月豪雨被災地状況確認 熊本県八代市坂本町

200724令和2年7月豪雨被災地状況確認 熊本県八代市坂本町

熊本県立大 柴田ゼミの調査に同行させていただき、国道219号があちこちで崩落し、アプローチが困難な八代市坂本町へ。

この日も強い雨で、昨日まで通れたところが再び通行止めになったところもあり、行政職員が危険箇所を確認していました。

坂本町は、2005年に八代市と合併するまでの旧坂本村で、人口減少、高齢化が進む4,000人規模の地区。もともと2万人近くの人口規模があったこともあり、中心部の駅や行政の支所がある地域は、中心部として、機能が集積しています。

今回の水害は、その中心部に壊滅的な被害を与えた。被害の様は、洪水というより、津波被害の後のよう。東日本大震災の川をさかのぼった津波による被害地域のようにした。特に、道路と橋が寸断されているため、遠く離れた八代市中心部の避難所に避難されている方が復旧作業に来られるのもたいへんです。

5枚目の写真※1↓は、線路と道路が並行しているところで、川側の道路が崩落したために、仮に線路を道路として仮利用しているところです。また、最後の写真※2↓は、同じ坂本町ですが、球磨川の支流沿いのところで、どの支流も程度の差はありますが、浸水被害を受けています。

中越地震のときのように、将来のまちのあり方を見据えつつも早期の復興に取り組まないと、コミュニティが分断されてしまわないか、懸念されます。 ※1↑

※2↑



坂本



坂本 鶴の湯

差出人: 山本一馬fb

日時: 2020年7月26日 21:03:09JST

宛先: human@pop07.odn.ne.jp

件名: 坂本 鶴の湯

200724令和2年7月豪雨被災地状況確認 熊本県八代市坂本町の旅館「鶴之湯」

熊本県立大 柴田ゼミの調査に同行させていただき、木造3階建ての温泉旅館「鶴之湯」へ。

坂本町の復興には、相当な時間が見込まれます。この温泉旅館「鶴之湯」は、行政の動きに先駆けて、ボランティア等の復興支援の拠点にしようと取り組んでいます。

この日は、復旧と支援拠点の整備に向けた打合せ。柴田先生をはじめ、熊本地震時に益城町で伝統的な建物が被災し、今回の水害で被害を受けた県南部の地域からの支援を受けた当事者や各種専門家が集まり、1階での泥だし作業と並行して、2階で再建、支援拠点化に向けた計画や資金調達を協議。すでに、複数の民間事業者からの支援も始まっています。

現地を見ると、とても、行政がサボっているとは言えません。被害が甚大なのです。ただ、結果として、被災地の復旧、復興は遅れています。この温泉旅館「鶴之湯」の動きは、2年前の荒瀬ダム撤去を機に高まった地域活動の輪が広まり、注目を受け、熊本地震の被災者が今度は、支援する側にまわっているすばらしい取り組みです。

詳細は、以下の「熊本）豪雨被災の八代市坂本町を歩く 再生あきらめない」とう朝日新聞の記事等で紹介されています。

<https://digital.asahi.com/articles/ASN7K0BK2N7GTLVB001.html>

この鶴之湯の動きは、当主の土山を中心にさまざまな展開があると思いますが、多様な支援が求められます。ご注目ください。

一方、多くの注目されていない、活動や被災地が存在しています。それぞれの立場で、それぞれのつながりで、関わり、注目して、情報発信することが大切です。

以下のオンラインセミナーが今晚、開催され、柴田先生が報告されますから、関心ある方は是非。

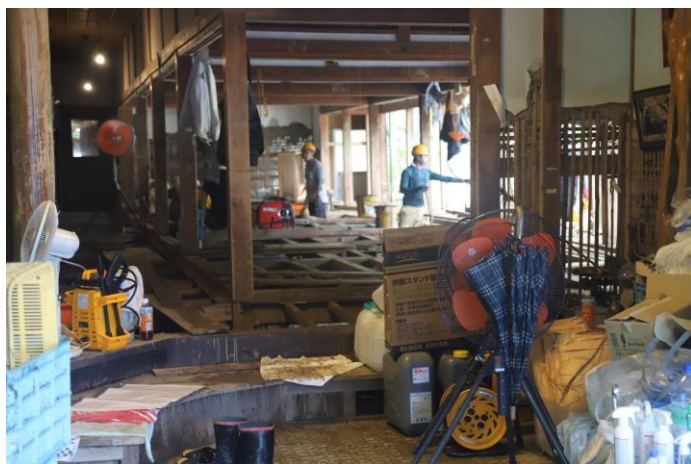
坂本 鶴の湯

7月26日オンライン勉強会★「豪雨水害の被災地から～熊本県球磨川流域の状況～」
開催(19時から)

<https://www.facebook.com/events/726959048139382>

講師: 柴田祐氏(教授／熊本県立大学 環境共生学部)

iPadから送信



差出人: 山本一馬 (jsurp副理事長)FB
日時: 2020年7月26日 21:06:26JST
宛先: 人間都市研究所 <human@pop07.odn.ne.jp>
件名: 佐敷

200723令和2年7月豪雨被災地状況確認 熊本県芦北町佐敷宿

熊本県立大 柴田ゼミの調査に同行させていただき、薩摩街道の旧要衝「佐敷宿」へ。
球磨川水系の佐敷川に沿った伝統的集落のまちです。

一見すると立派な街並みが残り、被害は少ないようにも感じるが、人の身長を超える浸水があり、堤防が破壊され、車は流され、流された中でなんとかポールにしがみつき一命をとりとめた人も。

お年寄りが幼少の頃に水害の経験をしているものの、被害の規模はずっと小規模だったとのことでした。

薩摩からの侵攻に備え整えられた「のこぎり家並み」は、芦北町の他の複数の被災地とともに、少ないながらも集まったボランティアの方々とともに、街並みを愛し、暮らす方々が賢明に復旧作業を進め、ようやく、異臭が収まったところとのことでした。

それにしても、球磨川水系だけでも、被害の範囲がなんと広いことか。認識不足でした。

iPadから送信



